

第 12 回日中健康科学シンポジウムにて研究成果を発表

第 12 回日中健康科学シンポジウムが 2 月 10, 11 日、中国浙江省で開催されました。本シンポジウムは、1993 年より隔年で浙江省医学科学院と静岡県立大学で執り行っているものです。今年度は、世界遺産にも登録された西湖で知られる杭州の浙江省医学科学院が会場となりました。

本シンポジウムでは、静岡県立大学から私を含め 5 名の院生が研究成果の発表をさせていただきました。今回私は、「Long-term effects of carbohydrate/fat ratio in the diet on plasma phospholipid composition in mice and human.(長期的な脂質、炭水化物の摂取比率が血中リン脂質組成に与える影響)」という題目で、血中に存在する特定のリン脂質分子種濃度が、炭水化物および脂質の長期的な摂取比率に応じて変化するという研究成果を発表しました。健康科学に関する幅広い分野の方がおられ、研究に対するご意見やアドバイスをいただくことができ、非常に有益な時間を過ごすことができました。また、中国人研究者の発表を聞き、研究内容のレベルの高さと研究に対する熱意を感じ、今後、中国における健康科学分野の研究がどんどん発展していくのだろうと感じました。その発展の中で、静岡県立大学をはじめとした日本の大学との研究交流がより深まることを期待しています。

薬食生命科学総合学府 食品栄養科学専攻
修士課程2年 井上瑞樹

